



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



バングラデシュの活動地の子どもたち

年次報告

2015.7-2016.6

今年度も温かいご支援を賜り心より感謝を申し上げます

「ハンガーゼロ」は必ず実現する

「世界ではおよそ7億9,500万人(9人に1人)が健康で活動的な生活を送るために必要かつ十分な食糧を得られていません」これは今年、国連WFPが発表した飢餓人口です。昨年のこの紙面で「8億3,600万人の人々が極度の貧困で苦しんでいる」とお伝えしました。今年は人口が増えているにも関わらず(72億人から73億人)飢餓で苦しんでいる人々の数が減っています。これは飢餓対策のために支援をしてくださる皆様や国際機関などの努力によって飢餓人口を減少させることができていると確信させるものです。私たちが掲げるハンガーゼロは飢餓のない世界の実現に向けての大きなビジョンです。しかしそれは決して幻で終わることなく、必ず実現できると信じています。そのことは90年代に比べて飢餓人口が半減していることから明白です。しかしまだまだ課題はたくさん残っています。

「飢餓に苦しむ人々のほとんどは開発途上国に住んでいます。途上国では人口の12.9%が栄養不良です」「地域別で最も飢餓人口の割合が高いのは、サハラ砂漠以南のアフリカです。この地域は4人に1人が栄養不良です」「5歳になる前にいのちを落とす子どもの半数近く(45%)は栄養不良が原因です。その数は310万人にのぼります」これ

らのレポートは昨年からはほとんど変わっていません。

先日、「世界食料デー」の現地報告のためにFHバングラデシュで長年活動してきたティム・ダンツさんが来日されました。バングラデシュはJIFHが一番長く関わってきた国です。今バングラデシュ人のスタッフが190名いて、8地区25コミュニティで12万人以上の人々と関わり続け、支援を行っています。彼は今年首都ダッカで日本人が犠牲になったテロのことを残念に思うと同時に、バングラの殆どの人々が自国で起こったテロに憤りを覚えていると言います。そして日本が長くこの国と関わってきたことにより、地域のリーダーが「仕えるリーダー」になってきていること、家族が神への信頼なしに暮らしの向上はあり得ないことを理解し始めていると言います。また、きっとこのことが子どもの未来を変え、やがて地域を変え、国を変えていく力になっていく、と力強く語ってくれました。

国連は「2030年に飢餓を終わらせる」という目標を掲げています。私たちも世界の人々と協力してハンガーゼロの実現に向けて活動を進めていきます。この1年も支援者の皆様と共に歩むことができた幸いを心から感謝いたします。「私から始める、世界が変わる」

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

クリスマスプレゼントに
販売期間限定
フェアトレードチョコのセット
(クリスマスはがき 5枚セット600円相当つき)
●フェアトレードチョコレート 50g 5個セット
税込 380円×5個=1,900円+送料600円
合計 2,500円
(但し北海道、沖縄、離島は送料1,200円)



- ①オーガニックビター
- ②ミルク
- ③ハーゼルナッツ
- ④ホワイトクリスピー
- ⑤レーズン&カシューナッツ
- ⑥オレンジ
- ⑦ビター・レモンピール
- ⑧カラメルクリスプ

上記8種類から
5個を選び、番号でご指定ください。
収益の一部はハンガー・ゼロ活動の支援金になります。
【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索。

今年度もご購入を通じて応援
くださり感謝申し上げます。
(キングダムビジネス)

2017年「国際協力カレンダー」



価格: 1部税込1,080円。年末年始の贈り物に最適です。送付はお申し込み順となります。10部以上で割引あり。WEBからも購入できます。
お求めは、(株)キングダムビジネスまで。
大好評につきお早めにお求めください!!

日本国際飢餓対策機構 役員・親善大使・海外スタッフ

- **理事**
岩橋竜介(理事長)、倉沢正則、木村雄二
崔 信義、大友幸一、横田法路、山田晶一
キム・ヨンゴル、清家弘久(常務理事)
- **評議員**
古林寿真子、笠川徹三、岸 好美
吉本慎二、岡本慎一
- **監事**
朝倉 章(顧問税理士)、吉田 伸
- **親善大使**
上原令子(ゴスペルシンガー)
森 祐理(福音歌手)
ソン・ソルナム(フルート奏者)
小堀英郎(ピアニスト)
MANAMI(歌手)
ナイト de ライト(バンド)
- **ハンガー・ゼロ特別大使**
秋元義彦(パン・アキモト代表取締役)
- **特命大使**
藤川武彦(Ainote)※在米
近藤高史
- **海外駐在スタッフ**(2016年7月現在)
【フィリピン】 酒井 保・慶子
【ボリビア】 小西小百合
【コンゴ民主共和国】 ジェローム・カセバ

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
41226口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: 男・女

〒

フリガナ 住所:

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 316号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで
- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替・クレジット、デジタルコンビニ



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL(022)217-4611 FAX(022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F
TEL(082)546-9036 FAX(082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンズ米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするため、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。



女性への教育と医療を通じて生活向上を目指す

Women's Christian Hospital スタッフ 水上京美



女性を対象にした識字教育の様子

パキスタン、M市にあるWomen's Christian Hospitalは創立117年の歴史を持つ産婦人科、小児科病院ですが2013年から私たちは院外の地域の支援を始めました。パキстанは、人が自身の生活を営む上で必要な基礎教育がまだまだ行き渡っていない国の一つです。とりわけ多くの女性にその機会が与えられていません。私たちは教育と医療を通じて人々の生活がより向上すること、そしてそのことを通して私たちに注がれる創造主の愛をお伝えしています。

現在私たちが活動しているB地区は、M市から車で約1時間離れた農村地域です。地域の主な作物は麦、綿花、サトウキビ。2011年に行った調査では、この地域の人々は、農業だけで生活するのは難しく地域の67%が日雇いで生計を立てていること、15歳以上で読み書きができるのは、21%であること、5歳以下の子どもの主な死因が肺炎と下痢であること、トイレをもっているのは、25%の世帯であることなどがわかりました。

職業訓練の成果が徐々に

このような背景の中、女性対象に識字教育、刺しゅうと縫製を学ぶ職業訓練、また子どもたちと女

性を対象に健康教育、そして聖書を通して人としての生き方を学ぶ集会を行っています。パキスタンの女性は、子どもを、とりわけ男児を出産することを求められます。クリニックではその中で不妊や流産、死産で悩む方々の治療と教育、そして妊娠後母子ともに健康に過ごすことができるよう、フォローアップに力を入れています。2014年からの2年間で24人の女性が1年間の職業訓練コースを終了し、そのうち5人は、職業訓練の教室で継続的に働き収入を得ています。まったく読み書きができなかった女性5人が、2年間学び、小学校5年生程度の読み書きができるようになりました。その後も継続して学んでおり、今後算数を学びます。

20年以上不妊に悩み、様々な医療機関で治療を受けていたAさんは、私たちのクリニックで治療を始めて数ヶ月後に妊娠していることがわかりました。40歳を超えていたためその喜びはひとしおで、現在は妊婦として定期的に通院しています。このような例は沢山あります。

スタッフに協力関係が

それとともに私たちがとりわけ大切だと考えているのは、共に

働いている人たちの教育です。スタッフが健全でなければ、本当に実のある良い働きをすることは不可能だからです。そのために12人のスタッフで聖書の学びを定期的に行い、この活動の意義と目的、仕事の取り組み方についての共通理解に努めています。そのような中で、スタッフ間にあった差別や自己中心性（カースト制度の影響で、清掃等人々が忌み嫌う仕事があります）が少しずつ軽減し、共に協力しあって働く関係が築き



上げられつつあります。中でも職員のSさんは依存薬物の使用を止め、聖書を自分で読み始めています。昨年12月のクリスマスの特別集会(写真⑤)には100人以上の地域の方々が来てくださいました。

皆様のご支援に支えられて、今日までこの活動に必要なものは全て与えられてきました。私たちはやがてパキスタンの人々が自分たちでこの働きを担っていくことができるようにと願っています。



衛生キットを全校生徒に配布(リオカイネ地域での保健衛生プログラム)

継続支援によって子どもたちと地域が変わる

Q 去年は「こんなところに日本人」というテレビ番組で、ボリビアの小西さんの様子が全国に放映されましたが、反響はどうでしたか。

友人や知人は、「感動した、いい働きをしているね」と言ってくれました。家族や親戚には私の活動への理解が深まる機会になったようです。また教会など、支援者の方々からは、「食料デーやニュースレターなどで報告を受けていたが、現地の様子や活動の過酷さが映像から良く分かり、さらに祈って支えていきます」との声を頂いて感謝でした。

Q ボリビアで10年間活動してきた中で教えられたこと、また大切にしていることは

今は世界里親会のアドバイザーをしています。その前は地域スタッフとして月のうち20日間は、ボリビアのスタッフと高地で共同生活しながら働いていました。24時間一緒に生活していると、お互いにしんどいことや意見の違いもでてきます。その中で互いの違い

を理解して尊重しあうことを教えられました。その経験が今の私の役割にとっても役立っていると思います。現地の人と共に生活することで、その地域の人々にどのような困難や苦しみ、喜びがあるかが分かり、どのような協力が必要なのかを知ることができたと思います。

1日2食以下での暮らし

Q ボリビア支援地の子どもたちの現状は

私たちは、南米大陸の最貧困国ボリビアの中でも最も貧しく困難の中にいる人たちを支援しています。現金収入がないので親が稼働に行き、学校へ行けなくなる子どもが多い地域です。また1日に3食食べられる人は限られていて、多くの家庭が1食か2食、それも夕食はスープだけという状態です。国は最低賃金を1ヶ月260ドル(約2万7千円)と定めています。町に出て日雇い労働や物売りをしても、その金額に届かない人も多いのが現状です。

また男尊女卑で女に教育は不要という考えがありますし、薬草以外の薬や医者信用しない地域でもあります。従って病気になった時の薬代などもサポートしていますが、以前ニュースレターでお伝



ボリビア駐在
小西小百合
世界里親会



高地では男尊女卑などの因習が根強く残っている

えたダビッド君のように、親が呪術を頼りにして、頑として医者連れて行かないことで命を失ってしまう例もあります。私たちは支援と共に、地域の人たちの価値観が変革されて子どもたちが学校に行くことができ、将来に希望を持って生きていけるよう励ましています。

Q 今年の食料デー大会で伝えたいことは

地域の現状と世界里親会の活動内容をお話すると同時に、「継続支援で子どもが変わる」ことをお伝えしたいです。チャイルド・サポーターの支援を受けて勉強し、育った子が、専門技術を身につけて自分の地域の子どもたちのために働いている姿を見ると、継続的な支援によってこのような若い人たちが生まれ、地域を変えていく力になることを痛感しています。ぜひ応援をお願いしたいです。



元里子たちが成長しFHIボリビアのスタッフに

アフリカ	635,916,091
ウガンダ	11,835,739
世界里親会	10,157,403
カサーレ小学校校舎建設支援	1,678,336
ルワンダ	9,185,007
世界里親会	3,363,296
ピース国際学校支援	2,757,500
ニャギハンガ地区農業指導	2,383,200
FH ルワンダ	33,906
海外駐在スタッフ／河合朝子支援	647,105
南スーダン	1,221,400
ルンバック村マブイ小学校給食支援	1,221,400
ケニア	7,542,607
世界里親会	3,180,761
シーブケア学校 給食支援	2,907,850
地域リーダー育成セミナー費用	1,453,996
ブルンジ	26,325,505
物資援助及び輸送費	26,325,505
ガーナ	573,872,587
物資援助及び輸送費	573,737,509
KFHI バクシネ親善大使活動支援	135,078
コンゴ民主共和国	5,919,213
ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ	5,919,213
ブルキナファソ	14,033
CN ブルー関連子ども支援	14,033



ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ (収入改善)



ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン (識字教育)

アジア	38,808,713
バングラデシュ	6,255,685
世界里親会	6,255,685
カンボジア	8,569,467
世界里親会	5,515,758
子ども教育センター豆乳支援	1,900,764
世界里親会活動準備金	1,073,194
保健衛生	79,751
フィリピン	21,337,001
世界里親会 (ビコール)	6,412,415
世界里親会 (カパタガン)	3,373,073
ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン	5,232,160
マニラ郊外小学校校舎支援	732,840
海外駐在スタッフ／酒井保支援	5,586,513
パキスタン	2,646,560
女性病院支援	1,235,000
ガールズホステル支援	1,411,560

中南米	40,494,801
ボリビア	14,714,846
世界里親会	9,827,875
リオカイネ地区鯉養殖事業	1,191,600
海外駐在スタッフ／小西小百合支援	3,695,371
ニカラグア	25,779,955
物資支援 (輸送費含む)	25,779,955



ネパール緊急支援キャンプ (健康調査)



フィリピン台風被災者支援 (ハンズ・オブ・ラブ)

海外緊急支援	8,005,696
エチオピア干ばつ被災者支援	4,456,400
バヌアツサイクロン被災者支援	51,935
ネパール地震被災者支援	2,187,304
フィリピン台風被災者支援	1,310,057
国内支援	25,537,093
東日本大震災被災者支援	22,475,134
常総水害被災者支援	320,322
熊本地震被災者支援	2,741,637



東日本大震災被災者支援・地域の憩いの場が完成



常総市水害緊急支援 (パン・アキモト)

その他	13,942,020
AINOTE (愛の手) 2016 年北米地区活動委託費	1,524,020
V.O.C. (地域変革) 活動資金	5,570,500
国際飢餓対策機構 分担金	1,252,300
国際飢餓対策機構連合活動資金	5,595,200

支援合計 7 億6,270万4,414円

※数字の単位は全て円です。
※駐在スタッフの支援金には、年金・海外旅行傷害保険などが含まれています。

以上の通り報告します。

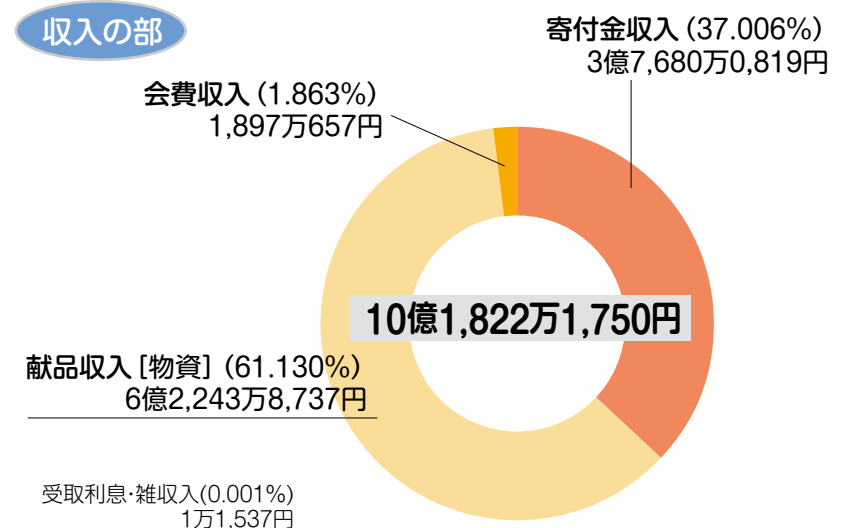
2016年6月30日

一般財団法人日本国際飢餓対策機構

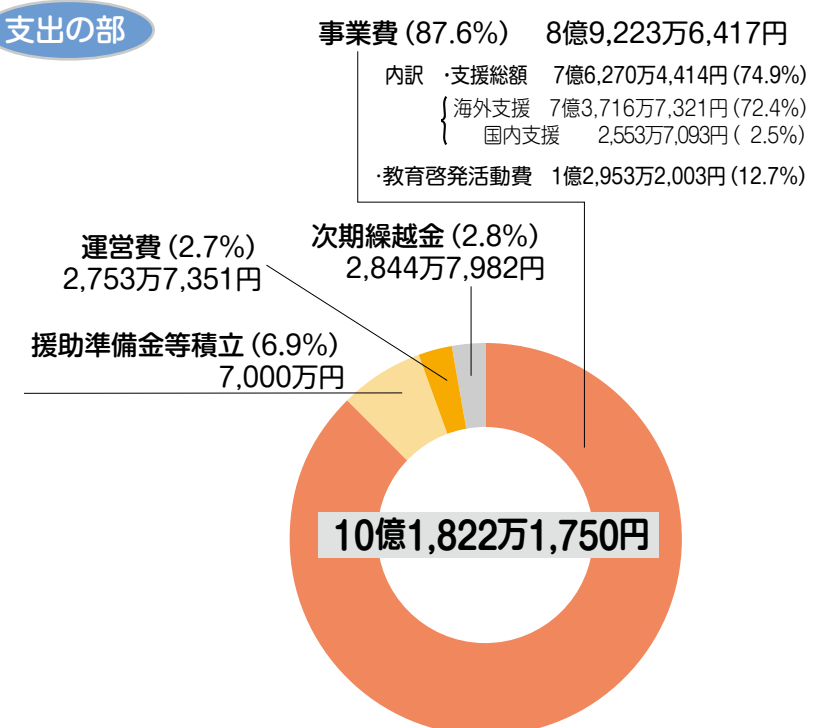
代表理事 岩橋 竜介

決算報告

収入の部



支出の部



監査報告書

一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋竜介 殿

私たちが監事 新倉 幸、吉田 伸の両名は、
一般財団法人日本国際飢餓対策機構の2015年7月1日から
2016年6月30日までの第4期会計年度における財産増減計算書
および貸借対照表を監査いたしました結果、適法かつ正確である
ことを認めます。

2016年8月25日

監事

新倉 幸

監事

吉田 伸

第6期決算公告

平成28年9月10日
大阪府八尾市弓削町3丁目74番地の1
一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介
貸借対照表の要旨

科	目	金 額
資の産部	流動資産	150,101
	固定資産	23,636
	合 計	173,737
負債債財及産の正部	流動負債	71,343
	固定負債	1,000
	負債合計	72,343
	基金	3,000
	指定正味財産	0
	一般正味財産	98,394
	正味財産合計	101,394
	合 計	173,737

官報9月28日に掲載

子どもたちの心と身体の成長を助けます

2015年度、それぞれの地域の子
どもたちへの教育支援に伴って、栄
養・衛生・学習・収入など各分野の
改善活動が軌道に乗り、実が見え始
めてきています。子ども、保護者、
地域が希望を抱きながら自立に向け
て成長し、将来が開かれつつある各
国の活動をじっくりお読み頂ければ
幸いです。継続的に支え、ご支援く
ださっている皆さまに心から感謝致
します。

南米 **ボリビア**
活動地：コチャバンバ州アサワニ
ポトシ州リオカイネ
支援里子数：354名

子どもたちの栄養不良を改善す
べく学校の温室菜園を使って野菜の
栽培が行われ、給食として提供さ
れています。また子どもが学んだ
ことが家庭でも実践され野菜を摂
取できるようになりました。保健
衛生プログラムが継続された事によ
って、保健センターが地域に建て
られました。村人が呪術治療より
医療を信頼できるようにスタッフ
は奮闘しています。

アフリカ **ウガンダ**
活動地：ナムトゥンバ地区
マガダ、イジランゴビ
支援里子数：455名

学校菜園が2015年から始まり、給
食を自分たちで賄えるようになって
きました。深刻だった栄養不良



も改善され、この菜園によって保
護者が栄養の大切さを知り、子ど
もたちも健康に育ってきました。
実用的な栽培技術が学校から地域

に広がってきています。カサーレ
小学校に4教室建設された事によ
り320人の生徒が屋内で学べるよ
うになりました。学校で雨水をた
めて子どもたちの水飲み場がで
きました。衛生教育にも熱心に取り
組んでいます。

アフリカ **ルワンダ**
(ピース国際学校)
活動地：首都キガリ、ニャンザ
支援里子数：112名

2015年1月、ルワンダ政府の土地
計画により閉鎖した元キガリ校の
生徒たちは、同等レベルの学校へ
転校しました。同校は里親会として
通学支援を継続しています。ニャン
ザ校では、読む力・話す力の向上
に取り組んでいます。また衛生教育
(特に女子)に力を入れており、教
師の学び会も持ちました。

アフリカ **ケニア**
(シーブケア学校)
活動地：ナイロビ郊外
支援里子数：105名

スラムの貧しい家庭の子どもたち
の通学を支援しています。環境クラ
ブに集う子どもたちが学校菜園で
野菜の他、たんぱく源となる動物を
育てて給食に用いるなど、学校の
自立運営にも一役買っています。

アジア **フィリピン**
活動地①：ミンダナオ島
カパタガン
支援里子数：117名

スポーツ活動と週2回の給食、また
聖書に基づいた指導と励ましによ
って心と身体の成長を助けた。子
どもたちは与えられた才能やコミュ
ニケーション能力を伸ばすためのサ
マーキャンプや遠足に参加して自
尊心を養い、他者を尊敬することを
学びました。教室の

椅子や机などの備品の支援を行
いました。

アジア **活動地②：ルソン島ビコール地域**
スラ、マトノグ
支援里子数：242名

健康推進キャンペーンと題し、子
どもと保護者それぞれに衛生教育
を行いました。保護者、特に母親向
けの学び会では母乳の大切さを話
し、子どもたちには手洗い、歯磨き
をしっかりとできるように、衛生キ
ットを各家庭に贈りました。学校で
も実践できるように、学校の手洗
い場も綺麗にしました。

アジア **バングラデシュ**
活動地：マチュパ
支援里子数：300名

歴史的に貧しさが深く根付く地域
で活動をしています。貯蓄グルー
プ活動を通して資産管理を行うと
同時に、メンバー間の信用の構築
を図っています。保健衛生訓練も
行い、特に妊婦や幼児を持つ母親
を対象に訓練を受けたFHボラン
ティアが指導に関わっています。

アジア **カンボジア**
活動地：シェムリアップ州
スパイルー
支援里子数：321名

新地域支援から2年が過ぎ、子ど
も数を増やして活動中です。家計
改善プログラムの貯蓄活動が活発
に行われており、各家庭の収入の
ための貸し付けを利用している村
の人々に成長が見られています。



カサーレ小学校の新教室

支援を待つ子どもたち52名のサポーターを募集しています。申込は電話又はウェブから。

「わたしから始める人々」の輪が広がる

国内では、世界の飢餓と貧困と闘う人々の現実と飢餓や貧困がいかに私たちの日常生
活と密接に関わっているかを知っていただくとともに、そのような方々に私たちがここから
どのようにして手を差し伸べることができるか、誰かではなくまず私から行動を起こすこ
と、を目的として日本全国で様々な啓発活動をしています。

具体的に愛の手を差し伸べてくださる2000近くのキリスト教会のご協力、定期的な講
演会や地域変革セミナー、またバザーやフェアトレード商品の販売等、様々なご協力をい
ただけるようになりました。

● **教育現場での講演**
(今年度実績76校、1万人を超える)

啓発活動で重要なことの一つ
に、小学校や中高等学校、また大
学などの教育機関での講演があり
ます。飢餓や貧困にあえぐ人々の
現実を伝え、「もし自分だったら
どうだろう」と他人ごとから自分



に置き換えて、今学んでいる事柄
や今そしてこれから将来において
自分が持てるものを、必要を覚え
る人々にどのように分かち合える
かを考える機会にさせていただき
たいです。そして誰もが食べられ、
誰もが生きられる世界への変革の

力となることを願っています。講
演を受けて、個人的にまた学校を
あげて自分たちにできることとし
て子どもの教育支援サポーター、
文房具の贈呈、募金活動、使用済
み歯ブラシの回収(協力企業から
の募金となる)など、具体的なアク
ションが生まれていることは感謝
です。

● **世界食料デー大会**

今年度は「生まれてきたのは、
生きるため・・・あなたの愛の手
がそのいのちを救います」をテー
マとし、途上国に生きる子供たち
に焦点を当てて全国24ヶ所で開
催されました。現地活動報告には
フィリピン駐在スタッフの酒井保・
慶子夫妻(写真右④)を迎えて現
地の自立開発活動、子ども教育支
援の報告をしていただきました。



お預かりしました15,178,882円
の募金はアジア、アフリカ、南米
で貧困や困難な環境の中で生き
る人々・子どもたちを支援するプロ
ジェクト(学校給食・教育)や難民
支援のために使わせていただきま
した。多くの方々に途上国の子ど
もたちへの教育支援の輪に加わっ
ていただけた大会となりました。

● **人財育成**

毎年春と夏に行われる「ファシリ
テーター・トレーニングキャンプ」
は、春のTCU(東京キリスト教大
学)、夏には初めて名古屋で開催
し、自立開発支援の働きに関心を
持つ若者の参加がありました。同
時に各事務所においても啓発・人
財育成のイベントが催され、「わた
しから始める、世界が変わる」一歩
が踏み出されていきました。

エチオピア干ばつ
緊急支援
国内地震・水害

災害被害から立ち上がる人々を支える

2015年のエル
ニーニョの影響
でエチオピアでは降雨量不足とな
り、国連は干ばつによる食糧と水
不足を警告。このためFHEチオピ
アと水資源確保の緊急支援活動
を皆様からの支援を用いて行いま



した。今年5月には干ばつ危機か
ら一転し、未曾有の大雨となりま
したが、今後の農業を安定的に行
うために井戸の提供や給水所を設
置することができました。
国内では4月中旬に発生した熊
本地震によって被災された方々へ
の支援を「九州キリスト災害支援
センター」を通して行いました。熊
本市内と益城町、南阿蘇の3ヶ所
に活動拠点を設置、スタッフを派
遣して事務局の運営の手伝い、水

や食料、生活
用品の配布、
ボランティア
による被災住
宅の片付け応
援、炊き出し、
子どもや家族向けのケアプログラ
ム、看護チームによる心身のケア
などを行いました。また、豪雨で
大規模水害に見舞われた常総市
や東日本大震災の被災者支援も
様々な形で継続しました。

